

京都醍醐寺

DAIGOJI TEMPLE

真言密教の宇宙

A Shingon Esoteric Buddhist Universe in Kyoto



2018年

9月19日(水) — 11月11日(日) サントリー美術館 [東京・六本木]

主催：総本山醍醐寺、サントリー美術館、日本経済新聞社、テレビ東京、BSジャパン

2019年

1月29日(火) — 3月24日(日) 九州国立博物館 [福岡・太宰府]

主催：総本山醍醐寺、九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、日本経済新聞社、TVQ九州放送、BSジャパン

京都の山科にある醍醐寺は、貞観十六年（八七四）に理源大師聖宝によって開かれて以来、歴史の表舞台で重要な役割を果たしてきた名刹です。真言密教のうちでも、特に加持祈祷や修法などの実践を重視する寺として発展し、その本尊となる彫刻や絵画、修法で用いる仏具など、九世紀の開創期からの名宝が数多く伝わっています。また、修法の次第や方法、本尊の図像についての記録、時々の為政者からの帰依を示す文書などは七万点近くに及ぶもので、国宝「醍醐寺文書聖教」として醍醐寺の繁栄の歴史を伝えていきます。



①

二〇一六年、国宝・重要文化財の仏像や仏画をはじめ、文書・書跡など数多くの貴重な寺宝が海を渡り、初めて中国で展示されました。平安時代から近世にいたる同寺の歴史と美術をたどる展覧会は好評を博し、上海と西安の二都市で八十万人以上が来場しました。

このたび、中国での展覧会開催を記念して、東京と福岡の二会場で同寺の密教美術の至宝を紹介する展覧会を開催いたします。

本展は国宝・重要文化財に指定される仏像や仏画を中心に、貴重な史料・書跡を通して、平安時代から近世にいたる醍醐寺の変遷をたどるものです。密教の世界観を表す重厚な密教美術のほか、桃山時代に豊臣秀吉が行った「醍醐の花見」の関連作品や、三宝院の襖絵、俵屋宗達による屏風など、醍醐寺をめぐる華やかな近世美術も鑑賞できる貴重な機会となります。



②



③



④



⑧



⑦



⑥



⑤

① 国宝 薬師如来坐像 平安時代／② 国宝 醍醐寺縁起 江戸時代／③ 国宝 詞梨帝母像 平安時代／④ 国宝 五大尊像 鎌倉時代(右から金剛夜叉明王・降三世明王・不動明王・軍荼利明王・大威徳明王)／⑤ 国宝 虚空蔵菩薩立像 平安時代／⑥ 重要文化財 醍醐花見短冊 安土桃山時代 慶長3年(1598)／⑦ 金目・金目台 安土桃山時代／⑧ 国宝 三國祖師影鎌倉時代 | 表紙:重要文化財 如意輪観音坐像 平安時代
すべて醍醐寺蔵

東京展▶早割りペアチケット:2枚で2,200円(一般のみ、1名様で2回使用可)

※販売期間:5/16~7/17(チケットびあ、ローソクチケット、セブンチケット、イープラスにて)

※当日券(一般)1,500円(販売期間:9/19~11/11)、前売券(一般)1,300円(販売期間:7/18~9/18)詳細は公式ホームページでご確認ください。

展覧会公式ホームページ | <http://daigoji.exhn.jp/>

※出品作品は変更となる場合があります。
※各会場とも会期中に展示替えを行います。